

義に飢え渴く者は幸いです

マタイの福音書 5章 1-12 節

はじめに

私がウェルカム・サンデーで説教をする時には、イエス様が語られた「幸せ」についてお話することになっています。

イエス様は、群衆と弟子たちに向かって、八つの「幸せ」について語られました。イエス様から見れば、どんな人が幸せに見えるかという話です。それは、①心の貧しい者、②悲しむ者、③柔和な者、④義に飢え渴く者、⑤あわれみ深い者、⑥心のきよい者、⑦平和をつくる者、⑧義のために迫害されている者、です。

今日は、四つ目の「義に飢え渴く者」についてお話します。

1. 義に飢え渴く者とは？

イエス様から見れば、「義に飢え渴く人」は幸せに見えるのです。なぜなら、義に飢え渴く人は「満ち足りる」からです。

「義」という言葉は、なかなか普段の日常会話では使わない言葉かもしれません。正義、仁義、定義、名義など、他の言葉と組み合わせるとよく使われますが、「義」という言葉だけではほとんど使われないように思います。ですから「義に飢え渴く者は幸いです」と言われても、あまりピンと来ないかもしれません。

聖書に出てくる「義」というのは、ギリシャ語の「ディカイオシュネー」という言葉で、他の聖書の箇所では、「正しいこと」「善行」「正義」と訳されます。

ですから「義に飢え渴く者は幸いです」というのは、正しさや正しいことに飢え渴く人は、幸いだということです。

しかしここで少し注目したいことは、イエス様は決して「正しい人は幸いだ」とか「正しいことをしている人は幸いだ」とは言っていないということです。イエス様が幸いだと言っているのは、あくまでも正しさや正しいことに「飢え渴く人」です。

飢えている人は、食べ物を持っていません。ただ食べ物を食べたいと願っている人です。渴いている人も、飲み物を持っていません。ただ飲み物を飲みたいと願っている人です。

義に飢え渴く人も、正しさを持っている人ではありません。また正しく生きている人でもありません。ただ正しく生きたい、正しいことをしたいと願っている人です。

イエス様にとって幸せに見える人は、正しい人でも、正しいことをしている人でも、正しく生きている人でもありません。そうではなくて、自分には正しさはない、正しく生き

られない、しかし正しさが欲しい、正しく生きたい、正しい人になりたいと願っている人です。

イエス様はある時こう言われました。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです」(マタイ9:13)。イエス様は主なる神様であって、私たちを救うためにこの地上に来られた方です。そのイエス様が救おうとしているのは、自分には正しさがある、自分は正しい人間だと思っている人ではありません。正しさに飢え渴いている人です。自分には正しさはない、しかし正しく生きていきたい、そう心から願う人です。

イエス様には、正しさに満ち溢れている人は幸せには見えないのです。正しさに飢え渴いている人こそ、幸せに見えるのです。私たちは必ずしも正しく生きられません。でもそれで良いのです。正しさが欲しい、正しく生きたいと願う心さえあれば、正しく生きたいと飢え渴く心があれば、誰でもイエス様によって幸せに生きることができるのです。

2. 私たちが求めるべき義とは？

では、私たちが求めるべき「正しさ」とは何でしょうか？私たちの心には、善悪を判断する「良心」というものがあります。聖書によれば、それは私たち人間を造られた主なる神様が、私たちの心に神様の律法を書き記されたからだと言います(ローマ2:14-15)。私たちは誰でも、心の中に神様の律法が書き記されていると言うのです。

しかし私たち人間は、アダムとエバが神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、罪の性質を持つようになりました。そして私たちの心に書き記された神様の律法は、曇らされて何が正しくて何が正しくないかが、はっきりと分からなくなってしまったのです。

では私たちが求めるべき「正しさ」は、どこにあるのでしょうか？私たちの心に求めてもその正しさはありません。それは罪の性質によって曇らされた正しさだからです。では私たちは、どこに「正しさ」を求めたらよいのでしょうか？それは、「聖書」です。

聖書は神様の言葉です。主なる神様は、罪の性質によって曇らされた神様の律法を、今度は私たちの心にではなく、聖書に書き記されたのです。そして聖書を通して私たちに、何が正しくて何が正しくないかをはっきりと示しているのです。そこにこそ、私たちが求めるべき本来の正しさがあるのです。

イエス様が「義に飢え渴く者は幸いです」と言われた「義」とは、この正しさです。主なる神様が求める正しさです。自分なりの正しさ、自分なりの正義ではありません。そうではなく、神様が求める正しさです。

3. 信仰によって満ち足りる義

イエス様は、神様が求める正しさに飢え渴く人は幸せだと言われました。それは必ずし

も、正しく生きている人ではありません。正しく生きられず、しかし正しく生きたいと願う人です。なぜでしょうか、なぜ正しく生きている人ではなく、正しさに飢え渴く人が幸せなのでしょうか？それは、イエス様によって「満ち足りる」からです。

正しく生きている人は、「自分の力」で正しさを満たそうとします。しかし正しさに飢え渴いている人は、「イエス様」によって正しさを満たそうとします。

私たち人間は、アダムとエバが神様の命令に背いて禁断の木の實を食べた時から、罪の性質を持つようになりました。そして神様の正しさを完全には満たすことができなくなりました。神様は、神様の正しさを完全に満たす者には永遠のいのちを、神様の正しさを完全に満たさない者には永遠の地獄の刑罰を定められました。

私たち人間は、誰ひとり完全に神様の正しさを満たすことはできません。誰ひとり完全に正しい生き方をすることはできません。

この世界で完全に神様の正しさを満たすことができるのは、イエス様だけです。主なる神様が人となってこの地上に來られたイエス様だけです。イエス様だけが、神様が求める完全に正しい生き方ができる方です。イエス様は完全に神様を愛し、完全に隣人を愛した方でした。イエス様は、完全に神様を愛し、完全に私たちを愛しているがゆえに、私たちのために十字架で死なれました。私たちに代わって私たちの罪を償うことが、神様から与えられた使命だったからです。

私たちは、自分の力で神様の正しさを満たすことはできません。自分の力で神様の正しさを満たすような正しい生き方をすることはできません。私たちは、イエス様によって神様の正しさを満たしてもらい他ありません。私たちが永遠の地獄の刑罰から救われ、永遠のいのちを得るためには、その道しかありません。私たちは、イエス様を自分の救い主と信じ受け入れる時、イエス様と一つに結ばれます。そしてイエス様が私たちに代わって、神様の正しさを満たしてくださるのです。

おわりに

イエス様は、「義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです」と言われました。義に飢え渴く人とは、イエス様を求める人です。自分には、神様の正しさを満たすことはできない、自分の力では神様の正しさを満たすような正しい生き方はできないと認めて、イエス様を求める人です。

イエス様は十字架に架かり、私たちの罪を償い、私たちの代わりに神様を愛し、隣人を愛し、完全に神様の正しさを満たす正しい生き方をされました。そのイエス様を自分の救い主と信じ受け入れる時、イエス様は私たちに代わって、神様の正しさを満たしてくださいます。そして永遠の地獄の刑罰から私たちを救い、永遠のいのちを与えてくださるのです。

主なる神様が求める正しさは、イエス様にしか満たせません。私たちは、イエス様を信じることによって、神様が求める正しさを満たすのです。それ以外に私たちが救われる道はないのです。

では、イエス様をすでに信じ受け入れたクリスチャンは、どのように生きればよいのでしょうか？イエス様を信じる前は、イエス様を信じることによって神様が求める正しさを満たされました。ではイエス様を信じてクリスチャンになってからは、自分の力で神様が求める正しさを満たしていかなければならないのでしょうか？

そうではありません。イエス様を信じる前も、イエス様を信じてからも、神様が求める正しさを満たすことができるのは、イエス様だけです。しかし多くのクリスチャンは、イエス様を信じてからは、自分の力で神様が求める正しさを満たそうとします。そして律法主義に陥り、クリスチャン生活に喜びがなくなり、正しく生きられない人を裁くようになります。そして救いの確信を持つことができません。イエス様ではなく、自分の力に寄り頼んでいるからです。

イエス様を信じる前も、イエス様を信じてからも、神様が求める正しさを満たすことができるのはイエス様だけです。私たちが、神様が求める正しさを満たすことができるようになるのは、イエス様が再び来られ、私たちの救いが完成する時です。

私たちはもはや救われるために正しい生き方をすることはしません。救われたからこそ正しい生き方をするのは、イエス様によって救われた感謝と喜びから、神様への愛をもって正しい生き方をするのは、しかし私たちは、自分の力で正しい生き方をするのではありません。私たちと共におられるイエス様が、私たちが正しい生き方ができるように、私たちを変え、私たちを助け導いてくださるのです。